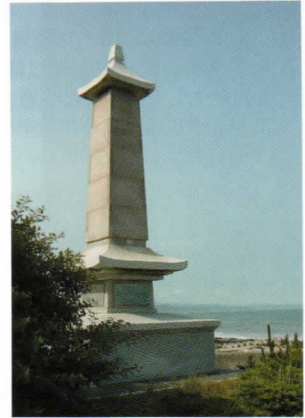
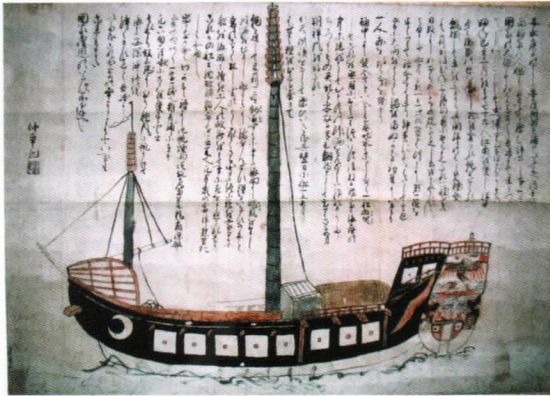


清国船「元順号」遭難救助の碑

1780(安永9)年、清国貿易船「元順号」は、交易地の長崎に向かう途中で遭難して黒潮に流され、安房国千倉(南房総市)に漂着した。嵐の中、漁師たちは懸命に救助し、手厚く介護した。

200年を経て埼玉県岩槻の人びとによって歴史が掘り起こされ、1980(昭和55)年、千倉海岸に「日中友好」と刻まれた記念碑が建てられた。



韓国にある日本の実習船「快鷹丸」遭難記念碑

20世紀になると、水産講習所の館山実習場が開かれ、本格的な水産教育が進められた。館山湾で訓練していた日本初の実習船「快鷹丸(かいようまる)」は、1907(明治40)年に出漁して朝鮮海域で嵐に遭難した。韓国浦項(ポハン)の漁師たちに救助されたが、4人の学生と教員が亡くなり、1926(大正15)年に遭難記念碑が建てられた。

戦争を経て、1945(昭和20)年、日本の支配に対する感情から碑は倒されたものの、1971(昭和46)年、土泥から掘りおこされ、「海に生きる男の友情の証」として韓国の漁師と東京海洋大学の同窓会「楽水会」によって今も守られている。

